

製本のススメ

Vol. 12

北国の雪は凄いですね ロマンチックな雪景色も、あんなに降ると災害だと思えます寒くて野菜は高騰しているのに、経済界では株が下落だそうで何事も過ぎたるは、及ばざるが如しだと、しみじみ思う今年の幕開けです。

今回は **16 頁折（八つ折）** のお話

用紙にミシン刃を入れながら折っていくアジロ折は16頁本掛けの基本的な折方です。一度に16頁分が折れますから、製本加工も丁合い数が減り、結果安価に結びつきますが、安価と良品質は時として同じではありません。それは何故でしょうか？

じつは何回も折り重ねて行く為に、**紙の厚み分だけずれて折れます**、そのため見開きの図柄は、絵が合いにくく 細い罫線は ずれてしまいます。たいてい版を作る時には**紙の厚みは想定外**だからです。写真集のような特に厚みのある用紙を使う場合には要注意で 企画の段階からぜひ製本を考慮してください。

また、マットコートのように、擦れに極めて弱い用紙の時には、インクを乗せる量等も十分に注意をする必要があります。何回も折ってプレスし排出されるために 機械ローラーの圧力を多く受けます。十分に乾燥させておかないと、裏映りの原因になり製本会社から「これ映っちゃいますよ」と連絡をうけた覚えが有る人もいるのでは？「何とか映らないようにやってください」と言われても、乾くのを待つしかないのが実情なのです。

ミシン刃を入れない 16 頁折の場合もあります。地図やチラシなど広げて1枚としてみるものです。また背中を糸綴りする冊子も、ミシン刃を入れません。この場合には厚い用紙は厳禁ですね。



Tea break

世の中エコロジーな時代となり、みんなリサイクルに余念がありませんね。**井関製本も** このエコロジーに取り組み今年から無線綴じの糊を【**エコノリ**】に変えました。多くの冊子は糊が原因でリサイクルがなかなか難しく、古紙としての利用が進みませんでした。当社の無線綴じは冊子の廃棄の際にも安心です。**見えない場所にも細心の心遣い！** しかも **お値段据え置きです**（拍手）どうぞ、我が社の無線綴じをお使いください。

by (株) **井関製本**